

白鳥新道 2 期に関する調査について

1. 令和 4 年度調査概要について

令和 3 年度の調査結果を受け、本市としては、地域及び道路交通の現況と課題を把握するにあたり、防災・医療・観光・産業・日常生活及び周辺道路の交通実態等について、室蘭開発建設部と協議を重ね以下の内容について継続調査を実施した。

(ア) 地域の現状・課題把握について

- ① 防災について：室蘭都市圏内における津波発生時の課題把握調査
- ② 地域医療について：西胆振圏内における救急搬送及び通院等の地域医療に関する実態調査
- ③ 観光について：西胆振圏内における観光の実態調査
- ④ 産業について：エネルギー、リサイクル関連産業の実態調査
- ⑤ 日常生活について：室蘭市内における日常移動や路線バスの運行に関する実態調査

(イ) 道路交通の現状・課題把握について

- ① 交通量について：室蘭都市圏内における交通量の実態調査
- ② 旅行速度について：白鳥新道 2 期並行区間における旅行速度の実態調査
- ③ 交通事故について：室蘭都市圏内における交通事故の実態調査

《参考》 理事者の取り組み

- (1) 市内医療機関に対する居住地区別の通院・入院患者に係る実態把握調査
- (2) 室蘭都市圏パーソントリップ調査（平成 28 年度～平成 30 年度）
- (3) 室蘭市立地適正化計画策定（平成 31 年 3 月）
- (4) 室蘭市都市計画マスタープラン策定（令和 2 年 3 月）

2. 室蘭開発建設部との協働による調査結果について

(ア) 地域の現状・課題把握について

① 防災について

- 室蘭市祝津地区・中央地区には、室蘭市役所や市立室蘭総合病院・日鋼記念病院などの災害拠点病院、広域防災フロートなどの災害拠点となる主要な施設が集積している。室蘭都市圏交通マスタープランにおいて防災軸及び広域防災軸に位置付けられている道道室蘭港線は、津波浸水によりアクセス不能となることが懸念される。
- 津波浸水により、救援救護のためのアクセスが不能となった場合、各地域での孤立化が想定され、孤立する人数は推計で約 2 万 2 千人にのぼる。また、道道室蘭港線の約 9 割が津波浸水区間となると想定されており、大規模災害時における輸送経路の寸断によって、復旧活動の支障となることが懸念されることから、災害に強い確実な輸送ルートの確保が重要である。

② 地域医療について

- 西胆振3市町では、二次医療機関において循環器内科・脳神経外科・産婦人科がなく、室蘭市に依存している。
- 西胆振地域から室蘭市への救急搬送件数は増加傾向を示しており、搬送割合は約7割と室蘭市に大きく依存している。
- 西胆振地域の脳血管疾患・心疾患の死亡率は全道平均よりも高く、搬送時間が長いほど死亡率が高くなる傾向にあり、西胆振3町は搬送時間が特に長く搬送時間の短縮が課題となっている。
- 市立室蘭総合病院や日鋼記念病院への通院患者は年間約30万人にのぼり、このうち約5万9千人が白鳥大橋を利用している。
- 救急搬送や通院の重要ルートである道道室蘭港線は、交通混雑による速度低下などが懸念されることから、市外からも迅速にアクセスできる速達性の高いルートの確保が重要である。

③ 観光について

- 西胆振地域の観光入込客数は、近年増加傾向にあったが、コロナ禍で減少している状況にある。
- 白鳥大橋は、道内唯一のインフラツーリズムのモデル地区に選定され、白鳥大橋主塔登頂クルーズが実施されている。
- 日本遺産の炭鉄港や世界遺産の縄文遺跡群、さらにはウポポイなどの歴史・文化を観光資源として活用したいという旅行会社の意向を確認できた。
- 北海道の観光施策において観光の柱の一つとして位置づけられている、アクティビティを通じて自然や異文化を体験するアドベンチャートラベルの機運が西胆振地域においても醸成されている。

④ 産業（クリーンエネルギー・リサイクルポート）について

- 室蘭市では、洋上風力や脱炭素に関する協議会が発足しており、洋上風力発電に関連する工場の新規整備や水素輸送に関する実証事業が進行している。
- 室蘭港は、リサイクルポートとして関連企業が多数立地し、廃材等が道内各地から室蘭港へと陸送されており、近年では特に金属くずの輸用量が増加傾向にある。
- エネルギー・リサイクル関連の原材料や製品の輸送に道道室蘭港線が利用されており、混雑の緩和や安全性の向上による物流の利便性向上が重要となる。

⑤ 日常生活について

- 室蘭市の日常生活における移動の約4割が祝津地区・中央地区を通行している。当該地区は、室蘭都市圏交通マスタープランでも広域連携軸・地域間幹線軸・交流軸に位置付けされる重要な道路が存在している。
- 道道室蘭港線は、医療機関や観光施設等の利用者需要が高い施設を経由するバス路線が多く乗り入れており、1日に約150便のバスが運行する、日常生活に重要な道路となっている。
- 道道室蘭港線は日常生活の重要ルートであることから、今後も沿道の商業施設や文化施設へのアクセス性向上や定時性の高いバス運行ルートの確保が重要である。

(イ) 道路交通の現状・課題把握について

① 交通量について

- 室蘭市内を東西に結ぶ、国道36号室蘭新道の交通量が約3万7千台/日と卓越している。
- 祝津・中央地区の重要ルートである道道室蘭港線や国道36号入江高架橋での混雑度は、1.5を超え高い傾向である。

② 旅行速度について

- 中央町周辺では、商業施設や信号交差点の連担により旅行速度が終日低下し、渋滞傾向が見られる。
- 港南町交差点では、臨港道路及び港南絵鞆線への右左折車両の影響により旅行速度が終日低下し、渋滞傾向が見られる。

③ 交通事故について

- 道道室蘭港線全体の死傷事故率は、17.7件/億台キロと周辺他路線や全道平均と比較すると高い傾向にある。
- 中央町周辺や小橋内町1-7交差点及び港南町交差点では、人对車両事故や右左折時事故などの交差点型の事故が多発しており、死傷事故率も14.2件/億台キロと高い傾向にある。
- 交通事故発生箇所は交差点が約7割を占め、交通事故類型は人对車両事故が最も多く全体の40%となっており、道内の国道の8%と比較して高い傾向にある。

3. 令和4年度の白鳥新道に関する室蘭市の取り組み

- 室蘭地方総合開発期成会による白鳥新道2期区間の早期事業化に関する要望活動
令和4年5月27日：室蘭開発建設部
令和4年7月7日：北海道開発局
令和4年8月9日：国土交通省及び財務省
- 令和3年度の調査結果について白鳥新道・幹線道路建設促進特別委員会へ報告
(令和4年8月23日)

4. 今後の予定について

- ① 引き続き室蘭駅周辺地区のにぎわいの再生、広域交流の促進等を図る。
- ② 白鳥新道2期区間の具体的な構造形式に関して、本市の防災ハザードマップや交通量推計などから、室蘭市としての素案の検討を進める。
- ③ 「社会情勢や生活環境の変化」及び「まちづくりにおける地域課題の検証」を踏まえ、住民意向の把握を行うとともに、市として地域の将来像について検討を行い、地域住民と具体の構造形式や白鳥新道の果たす役割について意思統一を進める。
- ④ 今後も室蘭開発建設部との連携・協働により、現状や課題把握に向けた調査・検討を進める。